

日時： 2014 年 10 月 29 日 (水) 16:00-17:30

場所： 402

フォーカストセッション

薬づくりの新しい R&D モデル – その1~新しい動き

New R&D Models for Drug Discovery-1~New Trends

世話人：神沼 二眞 (ICA)、多田 幸雄 (東京大学創薬オープンイノベーションセンター)、堀内 正 (慶応大学医学部)、坂田 恒昭 (塩野義製薬、大阪大学)、田中 博 (東京医科歯科大学)、中井 謙太 (東京大学医科学研究所)

開催趣旨：

現在、米国や欧州の製薬企業は、さまざまな理由で、これまでのような自社完結型の薬づくりのモデルが維持できなくなり、外部との共同研究 Externalization を重要視するようになってきた。それと呼応するように国は Translational 研究の機能強化を図り、ゲノム科学や ICT を活用して長年 Gold Standard とされてきた安全性 (毒性) 評価などの Regulatory Science をも革新しようとしている。さらに集団的なゲノム研究においては、患者を中心とした Patient-Centered な研究、一般の生活者の参加を促進する Participatory な研究を重視するようになってきている。新しいモデルでは、薬づくりの関係者が、製薬会社からアカデミアや国の研究機関、さらに患者を含むサービスの受け手 Consumers にまで拡大され、それらの間のパートナーシップに基づくコンソシアムのような組織でプロジェクト的に前競争的な研究が展開されている。

このセッションの世話人らは、昨年度より「薬づくりの新しい R&D モデルを探る」をテーマとした研究講演会を開催し、先行している米国や欧州で議論あるいは実践されている薬づくりの新しい R&D モデルをしらべるとともに、我が国における薬づくりのイノベーションと仕組みづくり (Renovation) についての考察も進めてきた。現在、必要な行動も、おぼろげながら見えてきている。

このセッションでは、新しい R&D モデルの可能性と問題点を提示するとともに、我が国における「薬づくりへの ICT の活用を加速するためのパートナーリング実験」への参加を呼び掛ける。研究マネジャーだけでなく、ICT を活用した薬づくり新しい潮流に関心をもっている多くの研究者の参加を期待する。

詳細は、次のサイト <http://join-ica.org/ws/141029.html> に掲載する。

参考文献と情報：

・神沼 二眞 訳／多田 幸雄、堀内 正 監修、「薬づくりの未来～危機を打破する R&D モデル」、日経 BP 社、2014 年：Bartfai T and Lees GV (2013) The Future of Drug Discovery: who decides which diseases to treat? Elsevier/Academic Press: Amsterdam

・キャドゥアライアンスのセミナー資料：<http://join-ica.org/ws/14rdseminar.html>